

第4章 重要文化的景観の保全・整備の将来像

4-1 基本理念（金沢市重要文化的景観整備計画研究会 提言）

約500年間にわたり都市を形成し育んできた金沢が、国の重要文化的景観の選定を受けたのは、従来の伝統的建造物群のような歴史的過去の形態をとどめたまちなみや建造物を遺してきたからではない。消滅が危惧される近世の武家社会において成熟した文化、特に海外から見て日本を代表し、きわめてシンボリックに表現された生活文化が、今もって金沢では継承され息づいているからである。つまり、「文化的」と認定された理由は、歴史的建造物の文化財的な価値を対象としたわけではなく、金沢の人たちの日常的な営みそのものの価値を反映したものである。

そこには金沢独自の生活様式、しきたり、伝統芸能などの文化があり、また伝統工芸のみならず、藩政期に培われた殖産事業により受け継がれてきたさまざまなものづくりの技術や精神がある。さらに、城下町に由来する都市構造や地形空間が継承され、ソフト面・ハード面にわたり、日本の都市文化のなかでも特異な価値観が現存している。

こうした「金沢文化」は、今日の他都市ではあまり見られなくなった、かつて武家によってつくられた「日本らしさ」を示す文化とも言うことができ、金沢は、きわめて日本的な「金沢文化」を日常生活に滲ませている稀有な都市として位置づけられる。金沢市民がこの土地の風土に合った生活スタイルをとり続ける限り、この都市は世界から注目され続けるであろう。

そのため、金沢は、有形の歴史遺産のみを保護するのではなく、こうした生活文化が決して消滅することのないよう、行政は保全・継承するための環境を物心ともに整えていく必要がある。また、金沢市民自身が、これが単なる地方都市の営みにすぎないと思わずに、世界が日本を見るとき文化であり、その文化は人類の歴史のなかで生き続けなければならないことを認識する必要がある。

したがって、都市としての自然景観や歴史景観、伝統的な市民生活原理を崩さず、金沢独自の生活文化を温存し、継承し続けていくことは、世界に誇る日本文化を維持し続けるこの都市の宿命であり、市民全体の覚悟をもって、この取り組みを実施していく必要がある。

4-2 まちづくりの将来像

(1) まちづくりの将来像

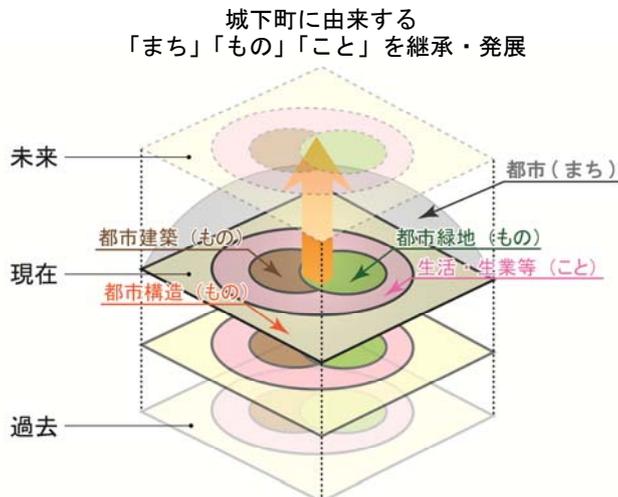
藩政期に由来する地域固有の文化が映し出された景観とその場所性に依拠した施設、またそこに培われた美意識や嗜み、生活様式などを継承し、風格と魅力ある「世界都市・金沢」の実現を目指す

金沢は、「城下町」という都市の基層（都市構造や生活文化）を保持しつつ、近代以降も都市としての変容を受け入れながら、歴史的な重層性のある都市を築いてきた。そこには、「城下町」という基層が今なお確かに存在していることが、金沢の大きな特徴と言える。

本市は基本構想として平成7年（1995）に「金沢世界都市構想」を策定し、これを最上位計画として位置づけている。本構想では、金沢の財産である優れた個性や魅力を磨き高めるとともに、都市の基盤の充実を図り、市民本位、市民主体で生活をいっそう豊かで安心したものを目指す。さらに、本構想の具現化のための「第2次基本計画」（2006年策定）では、金沢の個性を的確に捉え、藩政期以来の城下町らしい風格と、都市の賑わいづくりを推進することなどを目標としている。

「金沢の文化的景観 城下町の伝統と文化」の保全・整備を通して目指す金沢の将来像は、これまで本市が各種計画を通して目指してきた都市像に他ならず、文化的景観の保全・整備の取り組みは、「金沢の個性」を改めて的確に捉え、強みとして施策に活かそうとするものである。

そのため、日本を代表する大型の城下町として、重層的な歴史のなかで継承されてきた都市構造や歴史資産、文化を金沢の貴重な財産と捉え、藩政期に由来する地域固有の文化が映し出された景観とその場所性に依拠した施設、またそこに培われた美意識や嗜み、生活様式などを継承するとともに、それらを活かしたまちづくりを進めることで、「城下町に由来するまち・金沢」の個性や魅力をさらに磨き高めていく。さらには、金沢の文化的景観の特性を活かし、商業や観光等さまざまな産業とも結びつけ、持続的に発展する風格と魅力ある都市「世界都市・金沢」の実現を目指す。



将来像のイメージ

都市は、過去からの連続上に現在があり、未来がある。このため、過去の形を正当な形で評価し、現在の都市の中に位置づけ、将来に活かしていくこととする。また、城下町に由来する「まち」「もの」「こと」を継承・発展させることにより、金沢の個性や魅力をさらに高めていく。

(2) 文化的景観区域(旧城下町区域)のまちづくり

金沢市景観計画で位置づけた文化的景観区域は、「旧城下町区域」及び「卯辰山区域」である。「旧城下町区域」は、『金沢市都市計画マスタープラン2009』においても重点地区として設定されており、城下町「金沢」の伝統と文化を背景として、集積する都市機能や施設及び歴史的かつ文化的な資源等を守り活かしながら、金沢の都市づくりを牽引する「芯」として位置づけている。

旧城下町区域は、歴史・文化的要素が集まり金沢らしさを最も強く示すとともに、都市機能が集積しており、金沢の都市づくりの中心的役割を担う重要な地区でもある。

そのため、金沢固有の伝統文化に育まれた歴史的資産や生活文化等を守り活かしながら、商業・業務機能の強化やまちなか居住の促進、都市基盤の充実を図り、多様な人々が安全に住まい、営みと交流によるにぎわいのある魅力的なまちづくりを行い、伝統環境と近代的都市環境のバランスがとれた、美しく風格のある成熟したまちを目指す。

金沢の「芯」づくり

金沢の「芯」となる旧城下町の魅力を磨き、後世に引き継いでいくために、人々の暮らし、経済活動、交流の場の形成による「にぎわい」を創出する。

金沢の「芯」となる旧城下町の魅力は、人々の生活に根付いた固有の伝統文化であり、歴史的遺産や文化的景観などの「ほんもの」を大切にする。

金沢の「芯」となる旧城下町が輝き続けるために、伝統環境保存と近代的都市環境創出を調和させながら、金沢の新たな「みりょく」を高めていく。

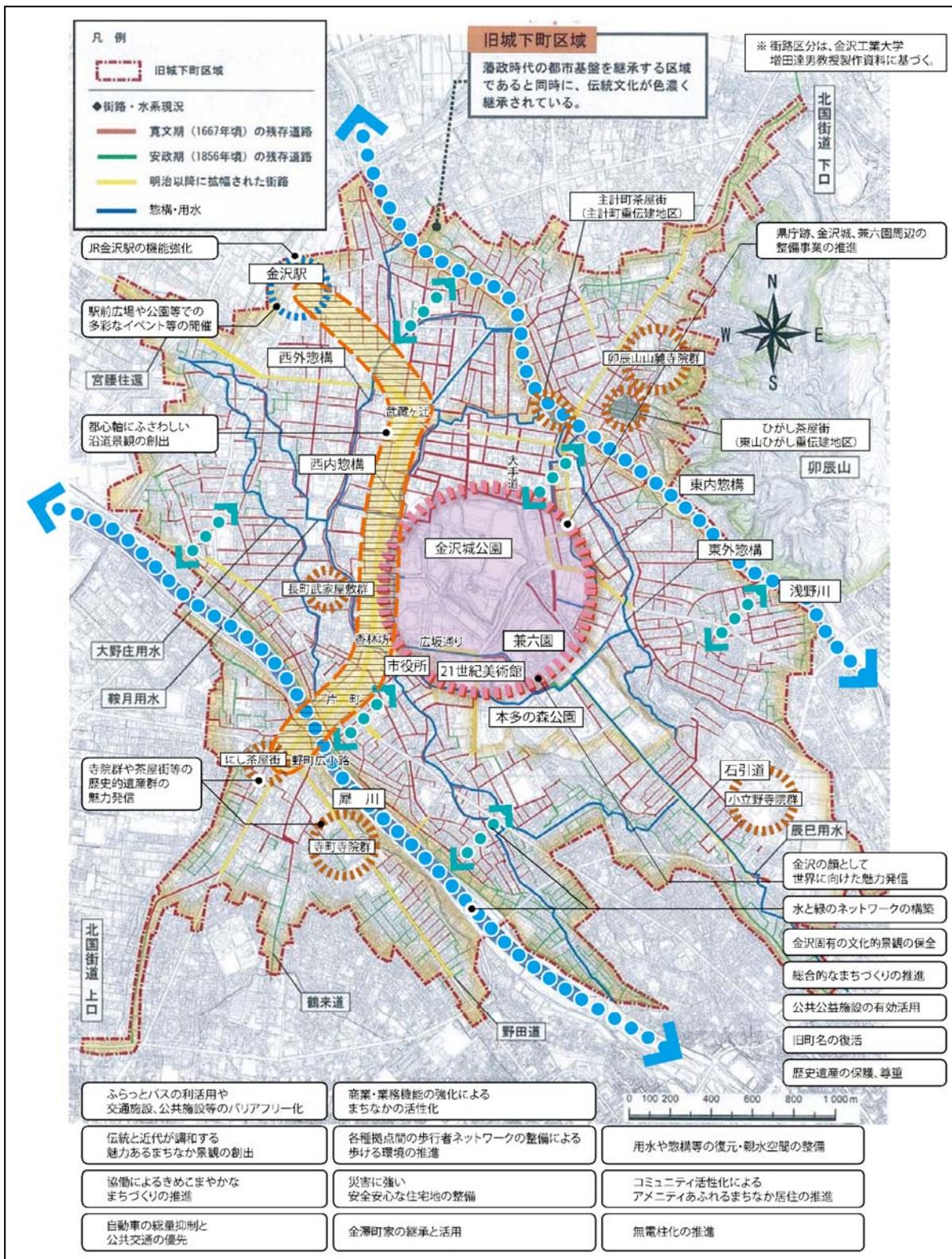
金沢の「芯」となる旧城下町を舞台とした交流拡大を図るために、住む人、訪れる人双方にやさしさと親しみに満ちた「もてなし」を提供する。

出典：金沢市都市計画マスタープラン2009

(3) 重要文化的景観選定区域のまちづくり

重要文化的景観選定区域は、旧城下町区域の中でも、日本を代表する城下町空間とその文化に関係した景観の重層性や象徴性、場所性、一体性を特に示す区域である。金沢城跡や兼六園を中心に概ね近世城下町形成の初期段階の範囲にあたる内惣構の内側を目安とした「金沢城跡周辺区域」や、その後背地の自然景観と重なる「卯辰山公園区域」などが該当する。

そのため、歴史、伝統、文化が息づく世界に誇る金沢の顔として、藩政期に由来する生業や文化が反映された歴史的資産や生活文化、地域コミュニティを保全・継承するとともに、都市基盤整備や都市政策の面においても、都市構造や歴史的資産、生業・文化に十分配慮して城下町らしい風格を継承し、歴史に責任を持つ都市「金沢」の魅力の世界に向けて発信していく。



旧城下町区域のまちづくり方針図

出典：金沢市都市計画マスタープラン 2009

4-3 保全・整備の基本的な考え方

本計画は、旧城下町に由来する「文化的景観区域」の歴史的重層性を視野に入れつつ、金沢城跡を中心とする一帯の「重要文化的景観選定区域」について、今後の保全・整備のあり方を示すものである。

なお、重要文化的景観選定区域は、金沢市文化的景観保存計画や金沢市景観計画、既存の法令などに定められた行為規制により保護されており、また、中心市街地活性化に資する様々な取り組みも行われている。本計画では、それらの取り組みと連携しながら、将来に向けて望ましい文化的景観形成を図る観点から、既計画や既法令に定められていない部分についても付加し、充実させることとする。その基本的な考え方となるポイントを以下の3点に示す。

(1) **ハード**+**ソフト** (街区の界限性の保持、都市に刻まれた記憶を適切に保全)

重要文化的景観は、建築物や樹木、その他構造物等の有形の諸要素や、生業・伝統文化・生活様式・風習等の無形の諸要素が一体となって、その土地特有の雰囲気や場所の特性をあらわしているもので、単に目に見えるものだけで捉えることはできない。個々の有形の要素と無形の要素が有機的に組み合わせられ、まとまりをもつ総体として成り立っている。仮に、街路や建築物を保護対象として位置づけたとしても、生活様式の変化や生業の衰退は街区の利用形態を変容させ、その街区が持っている界限性を変える場合がある。街区の界限性の保持は、単に建築物等によってのみ作られるものでないため、生活・生業にまつわる歴史や物語を継承しつつ、今日的なあり方を模索し未来へ向けて発展させていくことが重要文化的景観の保全・整備において大切である。

(2) **旧**+**新** (景観が生み出す一体性の価値と個別建築物の真実性の価値との調整)

近世城下町を基盤とする区域には、成熟した都市文化が生まれ、都市に暮らす人々の日常に今もなお深く浸透している。本市の中心として発展し続けてきた重要文化的景観選定区域は、今後、現代に生きる都市として、商業や業務機能を充実させると同時に、積み重ねられてきた歴史と文化に依拠するまちづくり施策を総合的に推進していく必要がある。

そのため、重要文化的景観の保全・整備は、近世城下町の「まち」や「もの」、「こと」を保存・継承しつつ、現在及び将来の都市においても、近世城下町に由来する文脈を活かしていくことが大切である。しかしながら、建築物等の修理・整備事業を行う場合、一定の時代に比重を置きすぎると「景観の重層性」や「景観の一体性」を損なう場合があるため、地域の・景観的文脈に配慮しつつ、新しい建築物であっても質の高いものは評価することとする。

(例：金沢 21 世紀美術館、旧三田商店など)

(3) **官** + **民** (産業施策・文化施策の推進、地区の将来像の構築)

重要文化的景観の価値は、人々の暮らしや生活習慣、経済活動などが継続的に行われることによって担保されるものである。このため、本計画における保全・整備の主役は、市民であることを前提としつつ、市民の文化的景観の価値への理解を深めるための取り組みや、地区の将来像の構築を官民協働で継続的に行うこととする。

なお、本市では、既に文化財保護・都市計画・景観の各分野が連携し、歴史・文化に配慮したまちづくりの方針のもと、多様な整備事業や伝統文化振興事業が行われており、今後も部局を超えた横断的な連携を図り、産業施策・文化施策を一体的に進めていくこととする。